命どう宝

2年1組5番
上原はるか

沖縄で繰り広げられた地上戦

ひめゆり学徒隊

ひめゆり学徒隊とは、1944年12月に沖縄県で日本軍が中心となって行った看護訓練によって動員された女子学徒隊です。

ひめゆり学徒隊は、各壕に分かれて働くことになり、主に負傷兵の看護や治療の手伝いなどの仕事をしました。寝る間もほとんどないまま、看護で昼も夜も働き続けることになりました。

太平洋戦争末期

1945年3月から3か月余り、日米両軍は沖縄で住民を巻き込んだ地上戦を繰り広げました。

日米の戦死者は20万人以上にのぼりました。その6割に当たる12万人は沖縄県民でした。日本軍は兵力不足を補うため中等学校や師範学校などの10代の生徒まで戦場に動員しました。

10代の女子学生にとって壮絶な作業でしたが、壕内の食料はおにぎり1日1個が何とか確保されている状況でした。

学徒隊の最後

ひめゆり学徒隊に動員された生徒と引率教師240人のうち、その半数以上の123人が命を失いました。沖縄県で日本軍に学徒隊として動員された生徒、教員の内、米軍との戦闘が激しくなる壕は重傷患者でいっぱいになりました。生徒が横になる場所はなく、壁にもたれて仮眠を取りましたが、すぐに患者に呼ばれて起こされました。患者は「水をくれ」おしっこがしたい」「痛い、痛い、何とかしてくれ」と叫び続けていました。食べ物も飲み水も少ないせいか、生徒たちには幻覚や神経症状ほとんどなくなり、汚れた衣服や頭にはシラミがわきました。

男子1552人、女子441人、教員99人、計2092人が戦争で亡くなっています。県民の4人に1人が亡くなる結果となりました。

人生で一度でいいから読んでほしい本

ひめゆり学徒隊戦記

「水筒」

新里堅進（しんざとけんしん）

この本は米軍が沖縄本土に上陸した激戦地の体験を元に描かれた漫画です。人や風景が絵になっているので、その時の状況が生々しく伝わってくるのです。

みなさんもぜひ読んでみてはいかがでしょうか？

編集後記

本や記事を読み親が子供を殺さなければならなかった状況や、暗い闇の中で「お母さん！」と子供がさけぶ場面などでは心が熱くなり、涙が出てきました。

たれもが天皇陛下バンザイとこけんで亡くなっていったわけではありません。大切な人の名前をさけび亡くなっていく兵士もいました。

沖縄戦全体まとめ

沖縄県出身軍人・軍属 28,228
本土出身軍人 65,908
一般住民 94,000
総計 200,656
米軍側 12,520

「ひめゆり学徒隊」の死者数

死亡	生存者
136	104

動員されたひめゆり学徒隊の総数240人